

産学官での研究成果を 生かし実用化

九州木材工業のエコアコールウッド



産学官連携の成果が今回の受賞に結実

保存処理木材「エコアコールウッド」の製造・販売を手掛ける九州木材工業（福岡県筑後市、角博社長）は、建築材にとどまらず保

存木材の特性を生かした様々な製品開発に取り組んできた。

このほど同社製造グループ研究開発チームリーダーの内倉清隆氏が「低分子フェノール樹脂処理木材の開発」で日本木材保存協会（今村祐嗣会長）第20回木材保存技術奨励賞を受賞した。

今回の受賞は「割れ・腐れ」を抑制し、木材に耐久性を付与する目的で開発された低

分子フェノール系保存剤（「エコアコール」）と、これをムク材に加圧・注入し養生・加熱処理した保存処理木材「エコアコールウッド」の実用化に成功した点が評価されたもの。

保存処理木材エコアコールウッドは、寸法安定性の高さや処理材の外観変化がほとんどない点が特徴となる。

エコアコールウッドは、内倉氏の恩師でもある樋口光夫氏（九州大学名誉教授）を中心に、福岡県工業技術セ

ンターインテリア研究所（福岡県大川市）と同社という産学での共同研究によって実用化された。

同社ではエコアコールウッドの流通履歴を明示させ、顧客からの要望に応じていく流通体制を整備する取り組みも進めている。

内倉氏は今回の受賞に際し「寸法安定性が付与された保存木材はあまりなかった。今後はこれを活用できる用途開発に取り組みたい」と抱負を語った。